



# 夏のオススメ本紹介

YA担当より

暑い夏は外で体を動かしたり、野外イベントもいいですが、涼しい場所で読書なんて最高ですね。夏休みの宿題の合間や、宿題が終わった後のお楽しみに、こんな本はいかがですか？ヤングコーナーに足を運んで、お気に入りの一冊を見付けるのも素敵ですね。

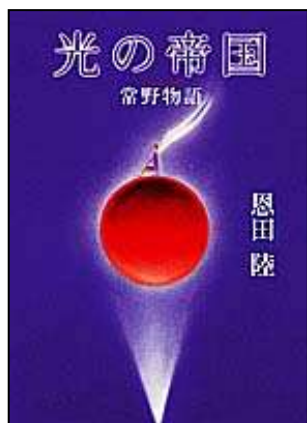
- ① 「赤川次郎ミステリーコレクション6  
子家庭は危機一髪」  
赤川 次郎／作  
岩崎書店  
YA書架 9137



「今日はきっといいことがあるんだ」小学6年の律子はそんな気がしてた。なのに、その日父親は警察に追われる逃亡犯となり、母親は恋人と駆け落ちしてしまっただ。律子は小学3年の弟、和哉と二人きりの“子家庭”になってしまう。父親は母親が、母親は父親がなんとか留守宅をやりくりしているものと思っている。収入もなくどうやって生活していくのか。さらに、借金取り、警察、泥棒、悪徳商法と次々と事件に巻き込まれ…。



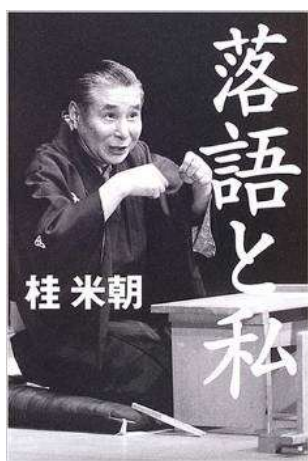
- ② 「光の帝国 常野物語」  
恩田 陸／著  
集英社  
YA書架 オン  
(こちらは単行本です。  
文庫版もあります。)



温厚で、知的で、権力への志向を持たない「常野」という一族。一族はそれぞれ特殊な能力を持ちながらも普通の人々に埋もれてひっそりと暮らしています。別々に思えるひとつひとつのエピソードがひとつに繋がってゆく、常野一族をめぐる10の短編集。哀しくも優しい不思議な秘密を覗いてみませんか？



- ③ 「落語と私」  
桂 米朝／著  
ポプラ社  
YA書架 779カ



今年3月、89歳で亡くなった『上方落語中興の祖』桂米朝さんによる「落語」の話。落語ってお年寄りが聞くものじゃない？という人にも、興味あるけど楽しみ方とか良く分からない、という人にもオススメ♪とても読みやすく、分かりやすく書かれていて、落語の歴史、しぐさの意味や内容、落語にかかわる人々まで、楽しく幅広く解る1冊です（1975年刊の新装改訂）



- ④ 「フィンランド理科教科書  
生物編」  
Mervi Holopainen ほか 著  
YA書架 4007



この本は、フィンランドで出版されている中学校の理科の教科書を翻訳したものです。鮮やかな写真、精密なイラストが満載で、教科書としてでなく、読み物としても楽しめます。日本の教科書と比べてみると、内容の取り扱い方が大きく違い、特に9章の「生殖」は、日本では保健に含まれる部分です。「理科が苦手」「興味がない」「おもしろくない」そんな人におすすめです。

